

松山市教育会情報

発行所 松山市教育会
 松山市祝谷町1-5-33
 ☎ 089-933-0354
 ホームページアドレス
<http://matsukyouikukai.main.jp/>
 発行者 小野 誠 一
 編集 調査研究部

ふるさとへの想い



副会長
尾脇 康 資



「子規さん俳句かるた」より

松山市教育委員会 編
 松山市立子規記念博物館 監修

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、私事ですが、教職生活も残すところ4か月ほどとなりました。（この原稿を書いているのは12月初めで、本号が発刊される頃には残り2か月を切っているはずですが。）38年間に渡る私の教職生活で、最も大きな影響を受けたのは、新採教員として怒和小学校に赴任したときに怒和中学校に勤務していた金本房夫先生です。実は、怒和島は、私の生まれ育ったふるさとであり、怒和小中学校は私の母校でもありました。つまり、私はいきなり地元での勤務となったわけです。金本先生は、当時すでに愛媛県の社会科教育の中核を担うバリバリのミドルリーダーでした。そして、卓球部指導でも県下にその名をとどろかせるスーパー熱血教師でした。そんな金本先生が、私によく「尾脇、地元の教師は2倍やって普通、3倍・4倍やって初めていい先生と言われるんぞ。」と言っていました。「僻地に光を」ではなく「碧地から光を」をモットーにふるさと中島の教育に情熱を注いできた金本先生の言葉には、重みがありました。常々金本先生は「へき地にこそ教育の原点がある。」という信念を抱いていました。だから「『僻』という字を訓読みすると『ひがむ』と読む。そんな字を当てるのは田舎を見下している証拠だ。『へき』という漢字には『紺碧』の『碧』こそふさわしい。」という強い思いを自分の著書にも記していました。その教育観に感化された私は、結局38年間の教職生活のうち26年間を中島の小学校で勤め、ふるさと中島の子供たちのために全力で教育活動にあたってきました。そして、私が常に教師として目標にしてきた金本先生は、29年前から義理の父親となり、いつも身近にいてよき話し相手になってくれています。

私は残念ながら中島小学校の校長として勤めることはできませんでしたが、退職後は中島に帰り、教員時代とは違った形でふるさと中島に貢献したいと考えています。もちろん松山市教育会中島支部のOB会員としても、中島小中学校に関わり、中島の子供たちのために役に立ちたいと思っています。現在、学校は様々な外部の人材を求めており、そのニーズに応えるために教育会には、「チーム学校人材バンク」も構築されています。ぜひ多くの教育会OB会員の方にご自身のふるさと学校のためにそして子供たちのために、教育活動へのご支援をいただけたらと思います。

今後とも松山市教育会に対するご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

教育講座

R4.7.22(金) 文教会館にて

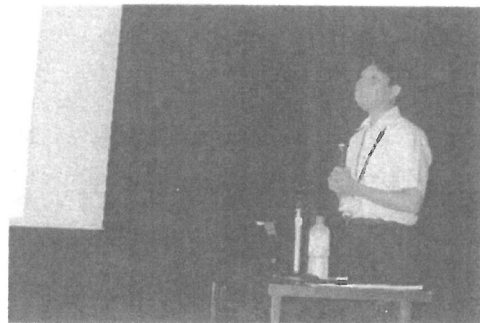
GIGAスクール構想に対応した授業づくり ～現状とこれから～

松山市教育研修センター

小田 浩範 先生

1 GIGAスクール構想の背景と目指すもの

Society5.0の新たな社会が始まると言われている。Society1.0は狩猟の時代、2.0で農耕、3.0で工業、4.0で情報の時代となり、さらに新しいSociety5.0が到来する。多くの人々がスマホ決済を取り入れているし、スマート農業や自動運転も始まっている。社会の在り方が大きく変わってきており、予測困難な時代に対応できる資質・能力が求められている。学習指導要領では、情報活用能力を学習の基盤



となる資質・能力の一つに位置付けている。そこでGIGAスクール構想が登場するが、その背景には、衝撃的な数字がある。2018年にOECDが行った教育環境の国際比較に関する調査のうち「中学校で生徒に課題や学級での活動にICTを活用させる」という項目は、日本はOECD諸国の中でも非常に低く、ICTを活用した学習に関する他の指標も軒並み最下位だった。2012年に1位だった読解力は、コンピュータでテストが行われるようになってから大きく順位を落としている。また、2年前のコロナ禍では日本は休校となったが、諸外国ではICTが当たり前のように使われ、オンライン授業が行われていた。日本の子どもたちにとってICTは遊び道具で、勉強の道具になっていなかったのである。このような状況の中でGIGAスクール構想がスタートし、コロナ禍で超高速ネットワークや一人一台端末等の整備が一気に進んだ。PCに対する考え方も変わり、ソフトウェアやデータはクラウドを活用し、PCは表示するものという考え方になってきている。

「令和の日本型教育」では、四本柱の一つにGIGAスクール構想の実現が挙げられている。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためにICTは必要不可欠である。松山市では「いさす・つなぐ・ひらく」をキーワードに「これまでに蓄積した教育実践」と「最先端ICT」のベストミックスにより、情報活用能力や教科等の資質・能力を育成していくことを目標としている。文部科学省は、一人一台端末を活かした学びの変容イメージとして三つのステップを示している。ステップ1では一人一台端末を日常的に活用し、汎用的な力を教科横断的な視点で育成していくこと。ステップ2では日常的な表現の道具（アウトプット）として活用し、教科の学びを深め、教科の学びの本質に迫ること。ステップ3では探究のプロセスにおける様々な場面においてICTを効果的に活用し、教科の学びをつなぎ、社会課題の解決に生かすことを目指している。

2 各校で広がる活用の様子

この2年間で授業の様子が大きく変わってきた。タブレット端末を使った課題の配付や提出、意見の共有は当たり前になった。カメラで撮影したものに録音機能を使って感想を記録するなど活用の幅が広がっている。デジタル教科書も多くの学校で使われている。EILS（エイリス：えひめICT学習支援システム）では問題作成もできる。これまでは、紙のノートは個人の専有、タブレッ

トは共有であったが、タブレットも専有となり、どちらを使うか選べるようになった。ワークシートをデジタル化すれば書き直しや付け足し、回収、共有などが容易になる。思考ツールも多くの学校で使われている。記録として書く活動よりも、自分の考えをまとめるための書く活動に時間を割けるようになった。委員会活動やアンケート、欠席連絡、予定連絡などでも活用されている。今まで当たり前だったことを、これからも当たり前でよいのかという視点で見直すことが大切である。

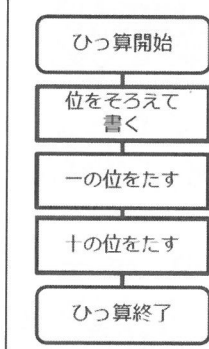
3 オンライン教育

オンライン教育には双方向と単方向、同期型（リアルタイム）と非同期型（オンデマンド）の4つの形態がある。例えば運動会の配信は単方向の同期型、ロイロノートでの課題配付と回収は双方向の非同期型である。各教室や各学校をWeb会議システムでつないだオンライン交流なども行われており、オンライン教育が日常化されてきている。

4 プログラミング教育

小学校はプログラミング教育が必修化され、中学校は内容が増え、高等学校は「情報Ⅰ」が新設された。今後は大学入学共通テストにも情報Ⅰが出題される。小学校から情報活用能力やプログラミング的思考を育てていく必要がある。小学校段階のプログラミング的思考には、順次（シーケンス）、繰り返し（ループ）、分岐（場合分け）、修正（デバック）がある。授業におけるプログラミングの単元を意識して指導してほしい。手順を可視化することがポイントである。付箋を使うと貼り替えや付け足し、色分けなどが容易にできる。

手順の視覚化



5 これから求められる授業づくり アウトプットと協働的な学び

新聞やレポート作成は、手書きだと間違えたときに全て消してやり直していたが、デジタルだと修正が簡単で時間のロスがなく子どもたちがよりよいものをつくることができる。プレゼンテーションで発表させると、子どもたちが情報の収集・整理を行うので、ただ書き写すだけの調べ学習ではなくなる。「共同編集」も協働的な学びの中で重要である。また、動画編集も簡単にできるようになっており、プレゼンテーションとの違いを意識して指導するとよい。授業では個人で考える場面、グループで話し合う場面、全体で確認する場面をどうデザインするかが大切である。誰に何を伝えるかという相手意識を持たせると、子どもが学びを自分事として捉えるようになる。

6 デジタル・シティズンシップ教育

情報モラル教育では、インターネットの危険や悪影響を学び「～しません」と教え込む傾向があった。これからはICTの積極的な利活用が前提となる。正しい使い方を知り、よい使い手になるよう子どもたちに主体的に考えさせ、行動につなげることが求められる。問題が起こったときに活用から遠ざけるのではなく「問題が見えるようになった」と捉え、本人への指導や相手へのフォローをした上で問題をみんなで考え、子供たちの成長につなげていくことが重要である。

7 学校と家庭の学びをつなぐ

GIGAスクール構想ではクラウドサービスを活用することが前提となっており、学校でも家庭でも同じように使える。松山市では児童クラブ、放課後子ども教室等、保護者の責任下にある任意の場所で使えるようルール改正した。持ち帰りを始めたことで、課題の動画を見たり音読練習を提出したりするなど、学校と家庭の学びをつなぐ取組が進んでいる。一人でできることは家庭で行い、授業中は小集団や全体での話し合いや振り返りの時間を増やすなど、授業を充実させることができる。私たち自身の授業観をアップデートし、学校と家庭どちらでも当たり前前にICTを活用して『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが求められている。

令和3年度 教育功労者

松山市教育会では、本年度5月21日の松山市教育会定期総会において、以下のとおり、10氏に教育功労賞をお贈りする予定にしておりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、定期総会が書面表決となったため、直接お渡しすることができませんでした。

受賞者の御功績を紹介します。

【愛媛県教育会表彰】

渡部 英綱氏 (八坂支部)



平成11年から、生涯学習や学校教育の地域学習などに役立てることを目的としたデータベース「知恵の輪ホームページ」を立ち上げた。さらに、県内外の小学校での社会科や生活科における昔の暮らし・道具や地域巡り等の学習、教職員の研修会、八坂まちづくり協議会における地域の文化財・句碑巡りなどにおいて、講師として数多く指導を行い、学校教育や社会教育に多大な貢献を果たしてきた。現在までの「知恵の輪ホームページ」へのアクセス数は128万を越えており、これまでの成果の大きさがうかがえる。

また、松山市教育会理事並びに八坂支部長を2年間、評議員を7年間務め、現職とOBの交流の場づくりに指導力を発揮した。また松山市教育会の第1ブロックの研修会「三水会」(毎月1回実施)を立ち上げ、講師も度々引き受ける等、地域探訪の实地研修に多大な貢献をしてきた。

田中 綾子氏 (石井支部)



教職員現役時代より現在まで、チームの顧問として監督として青少年健全育成に貢献した。具体的には、湯築小学校でバレーボール指導を開始し、北久米小学校、雄郡小学校、双葉小学校と46年にわたり指導を続けており、現在も監督として活躍している。指導した児童は現在、順天堂大学、松山聖稜高校、宇和島南高校、中予地区スポーツ少年団の指導者として活躍しており、後継者も育てている。監督として、全国大会に8回出場し、ベスト8の成績を残している。四国大会では優勝9回、県内各種大会では優勝多数、また、広島、奈良、高松など日本のトップクラスのチームが参加する大会において、優勝1回、準優勝4回、3位4回の成績を残している。また、愛媛県及び四国地区小学生バレーボール連盟会長・副会長・理事を務めている。

指導に際しては技術的な向上を目指すだけでなく人間性を高めることを重視し、児童の健全育成に尽力していることから、児童・保護者は勿論のこと、学校からも厚い信頼を得ている。成人した後もスポーツを通して次の世代の育成に努力する人材を育成するなど、愛媛県教育界及び愛媛県青少年健全育成への貢献は大きい。

【松山市教育会表彰】

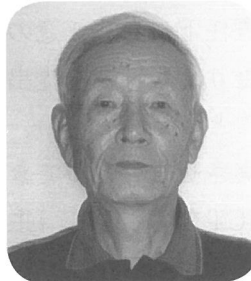
松岡 紀雄氏 (八坂支部)



松山市教育会八坂支部長を2年間務め、現職とOBの交流の場づくりに指導力を発揮した。また、松山市教育会第1ブロック研修会「わいわい三水会」(毎月1回実施)の世話を進んで引き受け、会員の交流に多大な貢献をしてきた。退職後17年間、自宅近くの通学路で八坂小学校児童の登校見守りを受け、児童が安全に学校生活を送れるように活動するとともに、南築山町内会役員として秋祭りの子ども神輿の世話をするなど、地域の児童生徒の健全育成に尽力した。

また、愛媛の物故芸術家の啓発活動に努め、12年間で1,200名の人物名鑑の編集を成し遂げ、萬翠荘では2年間で120名200点、文教会館では15年間で265名896点の作品紹介と展示会を行った。

関谷 芳郎氏 (さくら支部)



現職時には「生徒が主役」を教育信条に学校経営に取り組んできた。退職後は、松山市教育支援センターに勤務し、子どもたちの悩みの解決に尽力した。一方、社会科や総合的な学習の時間等の授業で活用できる、木工細工の日本地図パズルを、市内小学校数十校へ寄贈している。また、児童自らが木工細工を経験する授業まで発展させた学校では、熱心に指導に当たっている。コミュニケーションや発想を大切に、児童に寄り添った支援は、教職員からも称賛され、信頼も厚い。地域では町内会や公民館の役員を歴任している。後継者不足により伝統文化の継承が困難である状況を知り、宮総代として太鼓や獅子舞の指導において、教職経験を生かし「子どもを主役」にした実践や支援を行った。以上のことから、子どもたちは言うに及ばず、教職員・保護者や地域住民からの信頼は絶大である。

高岡 秀人氏（退職時 小野小学校）

令和2・3年度は松山市教育研究協議会会長として、新型コロナウイルス感染症が拡大する困難な状況の中「できない理由を考えるよりも、できる方法を工夫する」というスタンスで、安全・安心な運営方法を工夫しながら可能な限り研修活動を実施した。令和2年11月には、松山市教育委員会との緊密な連携のもと3年次となる松山市教育研究大会を実施した。また、令和元年度には、松山市小学校情報教育研究委員会の会長として市教育研修センターと連携しながら、GIGAスクール構想におけるICT機器の活用に尽力した。教室でできなかったYouTubeの視聴が可能になりデジタル教科書の導入に道筋がついたのもこの年度である。導入される一人一台パソコンの機種やインストールソフトの選定に当たっては現場の教職員の声を反映させ、翌年のロイロノート、オフィス365などの導入に結びつけた。

稲田 直行氏（退職時 東雲小学校）

松山市教育委員会指導主事、教職員担当室の主幹・管理指導監、松山市教育研修センター事務局長を務め、松山市教育の推進に多大な功績を残した。また、東雲小学校の校長として、感染症対策と子どもたち一人一人の学力と笑顔を保証する教育活動の両立に尽力するとともに、タブレット端末を積極的に活用して、自ら考えつながり合う子どもを育てる新しい学びを追究し、松山市教育研修センターと連携して市内小中学校のGIGAスクール構想をリードした。

さらに、令和2年度松山市小学校長会副会長、令和3年度同会長として校長会組織をまとめ、行政と学校現場をつなぎ、教育委員会と一致協力して校長会の運営及び全市的な感染症対策の調整やICT教育の推進に尽力し、多大な功績を残した。

中野 公雅氏（退職時 拓南中学校）

平成25年度から校長として「一人一人の夢や志を育む教育」を目指し、生徒や地域の幸せを願った教育活動の推進に邁進した。教育行政にも長年にわたり携わり、美術科における教科指導や生徒指導の分野において、教職員の指導的立場として活躍し、愛媛県全体の教育活動の推進に大きく寄与した。また、中予教育事務所教職員課長として教職員の指導にも携わり、教職員の資質向上を図った。

さらに、令和3年度、松山市中学校校長会会長として同校長会を運営し、松山市全体の教育の牽引的役割を果たした。また、同年度に松山市教育会の副会長としても活躍し、会長を補佐するとともに、現職とOBとの懸け橋的な役割を果たし、松山市教育会の発展に寄与した。

鳥山 寿美氏（退職時 旭中学校）

理科の学習指導の充実を図るため、日々、教材研究や実験の準備などに力を入れ、優れた教科経営を行った。各勤務校において校内研究授業に率先して取り組むなど、その研究熱心な姿勢は他の教員のよき手本となった。

平成3年度中四国中学校理科教育研究大会においては、生物分野の授業者として優れた授業を公開し、本県理科教育の発展に大きく寄与した。また、研修主任、主幹教諭、さらには教頭として、教職員に対して学習指導に関する指導を行うとともに、愛教研主催の講師・助教諭・養護助教諭等研修会においても長年講師を務め、後進の育成に取り組んだ。学習の遅れがちな生徒や相談室登校の生徒に対しても補充学習を行い、生徒一人一人に寄り添った学習指導に努めた。

川淵 光納氏（退職時 久米中学校）

栄養教諭として責任感にあふれ、共同調理場内の複数校の給食主任や学級担任とのコミュニケーションを大切にされた。愛媛県教育委員会保健体育課と松山市教育委員会保健体育課での通算9年間で培った行政での勤務経験は、その後の様々な場面で生かされており、民間委託の調理場の指導や納入業者との連携もしっかりとることができた。令和2年度は県の学校栄養士協議会の会長として、関係機関と連携し安全安心な学校給食の提供に努めることができた。姫山小学校では、松山市から学校給食の研究指定を受け、栄養教諭として先頭に立ち、全校体制で給食指導に力を入れていった。その努力が実を結び、姫山小学校が平成21年度には、学校給食優良学校の愛媛県表彰を、翌年には文部科学大臣表彰を受ける原動力となった。

鐘河内 薫氏（退職時 双葉小学校）

愛教研理科委員会幹事、松山市理科主任会幹事、松山自然科学教室の運営・指導、県教育会テスト作成など長年理科教育の発展に尽力してきた。日々の授業においては実物に触れたり、実験・観察を通して理科への関心・意欲を高めたりすることに労をいとわず取り組むとともに主体的・対話的で深い学びを目指して学習課題を工夫したり、ICTを効果的に活用したりするなど授業改善に努めた。また、学力向上推進主任として基礎的・基本的な学力の向上を図るための取組や分析結果を保護者に知らせ、家庭と連携することで学習習慣の定着にも成果を上げた。常に学校全体のことを考え、率先して職務を遂行する姿勢と優れた授業力は同僚から厚い信頼を得ていた。

「えひめ教育の日」関連事業

「まつやま教育フォーラム2022」高齢慶祝者(白寿・傘寿)名簿

	氏名	支部		氏名	支部
白寿	蝶野 利恵雄 様	余土	傘寿	佐々木 栄 様	久米
白寿	川崎 艶子 様	さくら	傘寿	山田 眞昭 様	浮穴
			傘寿	宮内 正民 様	小野
傘寿	大野 萬紀子 様	八坂	傘寿	洲之内 博子 様	石井
傘寿	松本 佐智子 様	素鷲	傘寿	三好 和子 様	さくら
傘寿	田中 美恵子 様	堀江	傘寿	西濱 拓美 様	浅海
傘寿	大内 博久 様	和気	傘寿	田中 圭子 様	河野
傘寿	鎌田 サチ子 様	高浜	傘寿	中野 道春 様	河野
傘寿	井上 昭博 様	桑原	傘寿	山中 格 様	栗井
傘寿	在家 洋子 様	余土	傘寿	金本 房夫 様	中島

— おめでとうございます —

思い出の学校

母校・中島中学校

金本 房夫 (中島支部)

教師生活38年。歴任校は浅海中学校(1年)、野忽那中学校(4年)、怒和中学校(4年)、勝山中学校(教頭1年)、そして中島中学校(18年。教諭として14年、校長として4年)。(あとは教育行政機関勤務。)

浅海中、野忽那中、怒和中は閉校し、私の歴任校で残っているのは、勝山中と中島中のみ。「思い出の学校」と言えば、18年間勤務させていただいた母校・中島中学校ということになる。

38年間の教師生活を終え、帰宅したときの愚妻(いや、愛妻と言おう)の最初の言葉。

「ああ、あんた、これで中中(ナカチュウ…中島中の略称)の先生方は、ほっとしとらい。」

私のことを誰よりもよく知っており、理解している妻の言葉。

「あんた、長いあいだ、ご苦労さん。ようがんばったね。」

といった、ねぎらいの言葉ではなかった。

私が負けずぎらいで、口うるさくて、校長として、先生方に対して無理難題を言ってきたんじゃないかという思いが、妻にはあったのであろう。

私は苦笑しながら、

「ああ、終わったよ。おまえには、ほんとうに苦労かけたな。」と言った。

私が教師になって一番イヤだった言葉は、「へき地性を克服し……」と言ったものであった。へき地に勤める先生方の勤務条件を改善することには大賛成だが、教育の内容そのものに、島や山村のへき地の教育も、都市部の教育もあるものかと思ってきた。

都市部の教育にこそ教育のモデルがあるかの如き当時の一部の教育思潮には、「何言ってやんだい」と思ってきた。

私は中島中の生徒たちに、中中（ナカチュウ…中島中の略称）はすばらしい、誇りを持ってと言い続けてきた。「また、先生あんなこと言って」という元生徒たちに、「イヤ、ほんとうに君たちは素晴らしい」と言い続けてきた。

そのことを証明するために、私は「運命共同体の求めるもの」というタイトルで社会科での授業実践記録をまとめ、文部省・国際理解研究所共催の国際理解教育実践記録に応募した。幸いなことに、それが内閣総理大臣賞になった。

「君たちの社会科における、君たちの感想、国際社会についての君たちの意見のみ書いている。君たちの社会科での授業の取り組み、ふるさと中島への熱き思いが評価されたんだ」と私は生徒たちに言った。

私は母校である中島中学校で、社会科教師として14年間、校長として4年間、計18年間つとめさせていただいた幸せな教師である。

教師生活最後の校長としての卒業式の「式辞」

「卒業おめでとう。中島中学校卒業生として胸をはり、我がふるさとに誇りをもって生きていってほしい。ほんとうに、君たちよくやった。ほんとうにおめでとう。私も君たちと一緒に我が母校を卒業します。」

あれから20年が経つ。

新任校「松前中学校」の思い出

西濱拓美（浅海支部）

ずっとずっと前のことのように思われる昭和40年4月、私の教員生活の1年目が始まった。3月まで事務員として働いていた私はどうしても音楽への夢をかなえたくて、同級生より2年遅れて夜間（二部）のある教員養成学校に入学し、運良く採用されたのであった。夢のような合格であった。これで生活ができる。親に楽をさせられる。そんな気持の出発であった。

「どんな所でも行きますか？」の質問に「はい」と答えた赴任先は松前中学校だった。とても立派な校舎、1学年5クラスの大きな学校、家から通える場所、とても驚きました。急に不安になり、私の能力で指導することができるか、質問されても答えられないのではないかと、不思議なことに60年近く経っているのにこの事だけははっきりと覚えています。

1年生と2年生の音楽に加え、他教科も受け持っていたので毎日の教材の予習が大変でした。そして、泣いたり笑ったりの5年間でしたが、教材にゆとりができかけた頃には生徒の指導にも苦しみ先輩の先生方に助けをもらいながら、やっと一日が終わる日もありました。

しかし、つたない指導で教えた生徒たちの中にも、ずっと音楽を愛し続けて頑張っている方もいます。とても幸せな気持ちと申し訳ない気持ちです。音楽の美しさと深さ、生きていくことの喜びと厳しさを与えてくれた5年間は、私の80年の中で忘れることのできない経験でした。そして未熟で我儘であった私を許して下さった地域の皆さまに今更ながら感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

校舎の4階にあった音楽室は今も60年前と同じように授業がなされていると思います。郡中線で松前の駅を通ると、見えなくなるまで見つめています。今はどんな光景が展開されているのだろうか。

「先生」と呼ばれ始めは豊之浦から…

山田 眞 昭 (浮穴支部)

昭和41年4月1日、県の八幡浜事務所で辞令をいただき、バスで伊方町教育委員会へ、そして豊之浦へ。そこは佐田岬半島のほぼ中央の宇和海側に位置する集落で、近くに伊方原発（昭和52年稼働）がある。豊之浦小校区は、農業（柑橘）、漁業（小トロ）を生業とする人が多い。当時の小学校児童数は160余名、職員数8名だった。ここでは、今も印象に残っていることを幾つか挙げてみる。

間借りや食事の件では、教頭先生や地元の教育委員さんにお世話いただき、当座の生活ができるように準備されていた。着任するなり、早速授業準備の作業が待ち受けていた。そこに子供がいる限り毎日授業は行われる。新採もベテランも似たような量の仕事が肩に掛かる。日案や週案などの仕事もなかなか大変。今考えると、とても稚拙な授業であったようにも思う。先輩からいろいろ細かな指導や援助をいただき何とか一日一日を送っていた。とても有り難く感じた。

当時は、少なくとも4日に1回は宿直勤務があった。その夜は、教材準備やピアノの練習をしていた。おかげでこの3年間は音楽もやれたのかなと思う。翌朝は、インスタントラーメンが朝食で、店のおばさんが「エエもん食わんと栄養とれんで。」とよく忠告してくれた。結構やることの多い日が続いたように思うが、楽しんでいたようにも思う。

7月には、毎年子供たちの水泳教室を行った。勿論海で。泳げる子もいたが、浜っ子に似合わず水を怖がる子も多い。1回や2回の水泳教室で泳げるようにはならないけれど、職員全員で一所懸命やったことがなつかしい。

伊方町や西宇和郡の小中陸上競技大会の素晴らしい運営に驚いた。初めて一緒に企画・運営に参加させてもらって、世話をする先生の手際よさに感服した。その町内大会や群大会に参加するために子供たちと練習したこともとてもよい思い出。運動場が狭くて100m走路がとれないため、学校近くの道路や海岸を使って走る練習をした。中でも砂浜に100mの直線コースをとり走ったことを思い出す。運動場や道路よりずっと柔らかい砂浜を全力疾走する感覚を味わわせ、併わせて腰、膝、足首などを鍛えたいという願いがあった。

豊之浦に住んでいた私は、地域の方々にも大事にされたように思っている。知り合いの家の船下ろしに参加させてもらったり、イカやタコ釣りを教わったり、町民運動会の地区対抗リレーで走ったり……私も若く元気だったので、地域の皆さんと共にとっても楽しい思い出をさせていただいた。

豊之浦での3年は、「先生」と呼ばれ始めてからの3年であり、研修はもとよりその後の教員生活の礎となるものをたくさん体験させてもらった。関わりのあった皆様方に心からお礼を申し上げたい。豊之浦、本当に有り難うございました。

令和3年度 報賞者名簿

氏 名	支部・学校	氏 名	学 校
田 中 康 子 様	正岡支部	熊 広 明 様	素 鷲 小
山 高 吉 仁 様	垣生支部	神 野 浩 彦 様	湯 山 小
加 藤 和 子 様	番町支部	渡 部 和 寛 様	窪 田 小
鈴 木 清 様	潮見支部	小笠原 陽 二 様	姫 山 小
田 中 勝 様	高浜支部	大久保 美香子 様	立 岩 小
矢 野 聖 寿 様	雄郡支部	渡 邊 真由美 様	拝 志 小
古 見 康 浩 様	退職時 新玉小		

— おめでとうございます —

ブロック編成

区名	学 校 名	区名	学 校 名
1区	番町小、味酒小、八坂小、東雲小、清水小、姫山小、 勝山中、東中	5区	堀江小、潮見小、久枝小、和気小、みどり小、 鴨川中、内宮中、北中
2区	新玉小、雄郡小、素鷲小、桑原小、たちばな小、双葉小、 拓南中、雄新中、桑原中、城西中	6区	湯山小、日浦小、道後小、湯築小、伊台小、五明小、 道後中、湯山中、日浦中、旭中
3区	味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、 津田中、垣生中、余土中、西中	7区	浮穴小、石井小、荏原小、坂本小、椿小、石井東小、石井北小、 久谷中、南中、南第二中、椿中
4区	三津浜小、宮前小、高浜小、興居島小、中島小、 三津浜中、高浜中、興居島中、中島中	8区	久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、 久米中、小野中
		9区	浅海小、難波小、立岩小、正岡小、北条小、河野小、栗井小、 北条北中、北条南中

活動の様子

令和4年度の文化講座について

福利厚生部

本年度は5つの文化講座を開講しています。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため休講になる場面が多かったのですが、今年度は感染防止対策を徹底し、ほぼ計画通り実施できています。会員の皆さんは、和やかな雰囲気の中で熱心に受講され、充実した時間を過ごされています。

【川柳教室】

第3水曜日の午後に文教会館で開講しています。12名の退職・賛助会員が、栗田忠士先生のご指導で川柳作りに励んでいます。

【俳句交換会】

12名の退職・現職・賛助会員の俳句が事務局に集まり、毎月、交換句集を発行しています。吉田晃先生、吉田博子先生のご指導を受けながら、句作を楽しんでいます。

【ヨガ教室】

第2土曜日の午後に文教会館で開講しています。21名の退職・現職・賛助会員が、脇坂恭子先生のご指導でヨガに親しんでいます。

【詩吟教室】

月2回月曜日の午前に文教会館で開講しています。15名の退職・賛助会員が、全国大会で優勝された伊賀上峰山先生のご指導で活動しています。

【ピラティス教室】

第1土曜日の午前に文教会館で開講しています。22名の退職・現職・賛助会員が、木下絵理先生のご指導でピラティスに親しんでいます。

年度末に、現職・退職会員全員に、令和5年度の文化講座の案内文書を配布します。興味をお持ちの方は、ふるってお申し込みください。今年度受講されている方も、改めて申込書をご提出ください。賛助会員も申し込むことができます。

なお、会員のニーズに合った新しい講座の開設も、検討していきたいと思っております。ご要望があれば、松山市教育会事務局までご連絡ください。

ブロック紹介

学校ホームページは学校と学校を支える人々をつなぐ絆

第8ブロック理事 深井 泰

第8ブロックは、久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、久米中、小野中の7校で構成されている。この原稿の依頼を受けたとき、ブロックの活動状況について報告しなければならないと思った。しかし、従来からOB会員の高齢化という背景もあり、支部活動もブロック活動もともに活発とは言えない現状に加え、新型コロナウイルス感染拡大予防のため親睦会等の活動も自粛してきており、顔を合わせることにすらできていないのが実際の所である。はて、何を報告すればいいのだろう、と考えてしまった。

原稿依頼文には、「学校を一つ取り上げて紹介してもよい」と書かれていたので、ここでは今年で開校32年となる福音小学校を紹介させていただくことにした。

私の長男が入学したのは北久米小学校であり、福音小学校はまだなかった。しばらくしてから「小学校ができるらしい」という話を聞き、そのうち建設工事が始まった。「ここに新しい学校ができるんよ。」と言って、散歩がてら子どもの手を引いてよく見に行き、校舎が少しずつ出来上がるのが我がことのようにうれしかったことを覚えている。

平成3年の開校と同時に、長男が福音小学校に通学するようになったが、参観日に訪れた学校は、モダンな外観やオープンスペースなど先進的な雰囲気にあふれ、先生方の表情からは、新しい学校を作るのだという強い思いが伝わってきた。

さて、「福音小学校を紹介する」と言ったが、学校評議員ではあるものの何をどう紹介したらいいのか、はたと困ってしまった。そこで思い浮かんだのが、学校ホームページである。

改めて福音小学校のホームページを開けてみると、そこには、新型コロナウイルスへの対応、子どもたちの学習の様子、学校行事の予定、学校の沿革、教育計画、校歌、学校評価、安全・安心マップなど福音小学校にかかわる多くの情報が丁寧に整理され、学校として伝えたいことが漏れなく紹介されていて、まさに「学校紹介」そのものだと気付いた。このホームページは、日々更新されていて先生方のご努力に頭が下がる。

松山市のすべての学校のホームページが福音小学校と同様に整えられ、学校の概要を簡単に知ることができるのは、本当に素晴らしいことだと思う。学校ホームページは、学校と支える人々をつなぐ絆だと感じた。学校を支える第一歩として、ぜひホームページを閲覧することを提案したい。

第9ブロック理事 金子 秀 樹

第9ブロックは、旧北条市の小学校7校、中学校2校の7支部で構成しており、活動は、北条ブロックとしての活動が中心になっています。運営は、各支部長・各小中学校長・各支部評議員・各支部事務局長で構成する北条ブロック評議員会で年間の活動を計画・運営しています。主な活動は、次の通りで、毎回、全会員に開催の案内をし、実施しています。

4月 評議員会

- ・年間の活動計画を作成し、担当者を決定しています。

5月 ブロック総会

- ・ブロックのすべての支部会員が一堂に会して、前年度の活動報告・会計報告及び本年度の活動計画・予算の承認の総会と、OB会員と現職会員のお互いの顔合わせと懇親を進めています。支部をこえた交流の場となっており、多くの会員の参加を得ています。

7月 楽しいランチ

- ・会員の希望から、設定し、参加可能な人を募集して、いろいろな店で交流を図っています。

11月 一日研修旅行

- ・主にバスを借り上げて、一日で行ける範囲を毎年行っています。現職会員とOB会員との楽しい交流と息抜きの日となっています。

12月 グランドゴルフ大会

- ・学校のグラウンドを借用して、学校の校舎の見学も含めて楽しいゲームを行っています。

3月 評議員会

- ・年間の活動の反省と次年度の活動についての話し合いを行っています。

